

直方ミニバスケットボールクラブだより

「子どもは子どものなかで成長する」



先週は、猛暑・酷暑の毎日、また夏休みが明け学校が始まり、子どもたちの体調維持、大丈夫かなあと、気かけながらの活動でしたが、なんとかのりきることができました。活動途中、体調を気にかけて少し休憩する子もいましたが、自分で自分の体調を感じて判断することも大切にしていますので、それも一定評価しています。しかし、この暑さのなかでも、毎日はじめから最後まで、しっかり活動できている子もおり、心身の強さ、バランスのよさは最大限評価しています。

6年生の成長が活動の質を上げる

先週から6年生のリーダーシップのとり方が大きく変わってきました。先々週まで、6年生のリーダーとしての在り方に注文をつけていました。6月後半からようやく再開した活動ですが、コロナ禍での活動で、なかなかおもいきって力を発揮できる状況ではありませんでした。社会の状況は今も変わっておらず、なかなか活動のアクセルを踏みづらい状況は続いています。しかし、ここまで約2か月ちょっと活動を続けてくるなかで、徐々に活動の質を高めていきたいとの思いをもつ意欲的な子どもも出始めていました。私もそろそろ...と感じていました。

ところが、かんじんな6年生のペースが上がらず、少し刺激しないと思いきりハッパをかけていました。例年のことですが、最初はそれでもなかなか変化が現れず、6年生との根くらべでした。それが先週からまずキャプテンが変わり、それに引っ張られるようにほかの6年生も変わってきました。今年の体制を決めるとき、しっかり時間をかけて一人ひとりの意志を確認していたことが、ここで効いています。キャプテンにお任せではなく、自分も6年生としてキャプテンと同じ立場でチームをリードしていくことを確認していました。

「キャプテンを支える」というのは、キャプテンを手伝うというよりも、自分もキャプテンと同じ気持ちで主体的に動くということだ、ということを確認しました。

キャプテンが先に変化したのは「覚悟」の違いでしょう。6年生全員に「自覚と責任」を促してきましたが、自分が「責任」をもってチームを引っ張るに

は、リーダーとしての「自覚」というよりも、もう一段階強い思い、「覚悟」のようなものがが必要です。キャプテンということで、逃げられないことを自覚し、毎日「覚悟」をもって活動をリードするようになったキャプテンが、まず変化しはじめたということだと思っています。まだ数日のことではありますが、比較的短期間で全体を見ながら、よく活動をリードすることができるようになっていきます。今後さらにその質も高めていってくれるように求めていきたいと思っています。

キャプテンの成長に感化されて、ほかの6年生も主体的にかかわることができはじめています。新しい子どもたちも増えていますが、それぞれがほどよい距離感で、ていねいないかかわりができています。

子どもは「子どもの世界」で成長する

子どもは確実に変化（成長）します。再開後に入部した子たちが数名いますが、すでに、その子なりの変化（成長）がはじまっています。「心身の発達」と言いますが、心と体の成長はセットです。両方が相互に刺激し合ってバランスをとりながら成長していきます。以前の『たより』にも書きましたが、子どもは「子どもの世界」で成長します。子どもにとって「子どもの世界」は、ある意味きびしい世界でもあり、あたたかさを感じる世界でもあります。活動のプロセスを通して両方の感情が行き交うなかで、心を通わせ、“友”としての絆を深めていきます。ともに汗を流し、励まし合い、助け合い、応援し合って、難局をのりこえ、笑顔を交歓します。なかまがいるから、多少苦しくても、しんどくても、活動を楽しむことができるのです。こうしてつくられた関係は、学校時代のみならず、成人後、また生涯にわたるつながりになることもあります。



shutterstock.com • 679228306



コロナ禍で、これまでの生活に規制がかかり、常に三密だのソーシャルディスタンスだの気にし、なかなかおもいきって遊んだり動いたりできず、ストレスを抱えながらの生活が続きます。それに追いつけかけのように6月～7月には豪雨災害に見まわれ、8月になると猛暑、酷暑の毎日。バスケットの練習のなかに、短時間ですが意識的に「学び」の時間をとっています。

ここ最近でいうと、

- ・ 異常気象と自分の健康管理...熱が出ること、汗をかくこと、水分補給や塩分の必要性と体のしくみ（小学校高学年保健体育）
- ・ 筋力と関節の関係...冬の体ほぐしと夏の体ほぐし（小学校6年理科）
- ・ 雨天時と晴天時の気温・湿度とフロア面やボールの空気圧の関係（小学校5年理科）